

習いごとへ子どもを通わせる親の意識に関する研究

中山 南海子
(本学非常勤講師)

栗原 武志
(本学非常勤講師)

森 博文
(初等教育学科助教授)

はじめに

戦後、半世紀以上が経過し、社会環境や家庭環境は大きく変化してきている。つれて、子どもを取り巻く環境や健康問題も複雑化しており(中村, 2002; 是枝, 2002), 運動する子どもとそうでない子どもの2極化の問題(関, 2004), ひいては運動・スポーツに関連したさまざまな障害の問題(福田, 2002; 斉木, 2002)等が山積している。

わけても、子どもたちの体力の低下傾向は著しく、学校体育に課せられた責は大きい。

一方で、文化・スポーツ商業施設の普及はめざましく、保護者にとってわが子を水泳教室や体操教室、ピアノ教室へ通わせることは、半ば当然の風潮ともいえよう。しかし、子どもに対する保護者の願いは多様であり、そうした教室へ子どもを通わせる保護者の意識には大きな違いがある。

本小論では、幼児・小学生を習いごとに通わせている保護者の意識を明らかにすることを目的として、質問紙調査を行った。具体的な方法・結果は以下に述べるとおりである。

方法

- 1) 調査期間：2004年9月～10月
- 2) 調査対象：大阪府下T市の主にバレエ、体操クラブ等に通う1歳から10歳の子どもを持つ保護者97名(図1参照)。
- 3) 調査手続
データの収集は集合調査法で行い、調査対

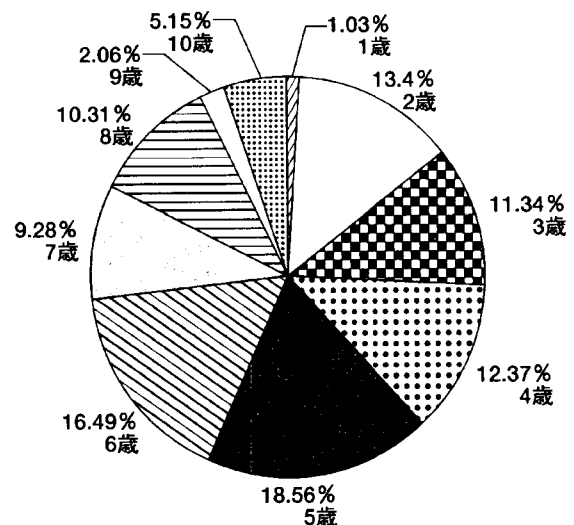


図1 調査対象者の子どもの年齢

象者に質問紙を直接配布し、調査の趣旨について説明を加えた後、その場で回答させ、回収した(回答率100%)。

4) 調査内容

ベネッセ教育未来センターの子育て生活基本調査報告書(1997年)及び第2回子育て生活基本調査-幼児版-(2003年)から、本研究において必要箇所を部分抽出して質問紙を作成した。

①調査対象時の習いごとについて

現在加入している習いごとの種類、加入時期・期間、加入予定期間、加入して得られたもの、開催日や開催時間・時間帯、費用についてなど。

②調査対象時以外の習いごとについて

①での調査対象以外の習いごとへの参加

の度合いやその理由、開始時期、学校外の費用を除いた習い事の合計費用など。

③子どもへの期待について

子どもへの期待学歴や将来像など。

④家族構成・保護者自身について

家族構成（父母や祖父母との同居の有無）、保護者の職業形態、保護者の仕事や家庭に対する意識、保護者の学歴、月収、家庭の暮らし向き、生活への満足度など。

5) データの処理と統計

回収した調査回答は、SPSS を用いて処理解析した。有意水準は5%とした。

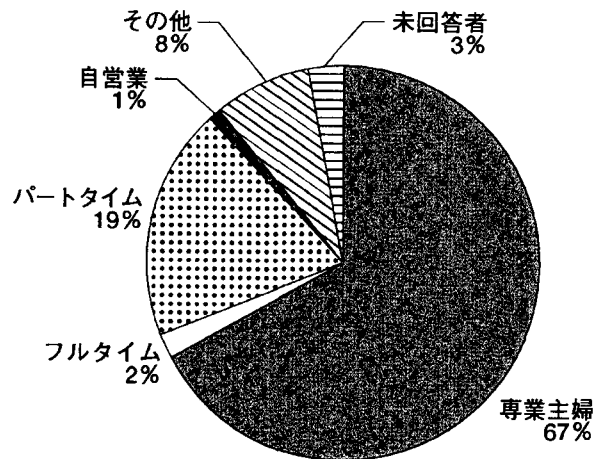


図3 調査対象保護者の職業

結果

1. 基本的属性

本調査における子どもと保護者の属性、家族構成は以下のとおりであった。

子どもは97名（男子22名，女子75名）でその男女比は22.7%：77.3%であった。年齢は平均5.21で5歳児（18.6）の割合が高い。また兄弟・姉妹数は平均1.85人で二人っ子（68%）の割合が高い。第1子は57.4%であった。

保護者は、質問紙記入者のほとんどが母親（96.9%）であり、その平均年齢は34.4歳で33歳から38歳までが全体の61.8%であった。

母親は専業主婦(67.0%)とパートタイム(19.6%)が8割以上を占め、一方父親の職業は会社員(85.6%)が最も多かった。母親の最終学歴は

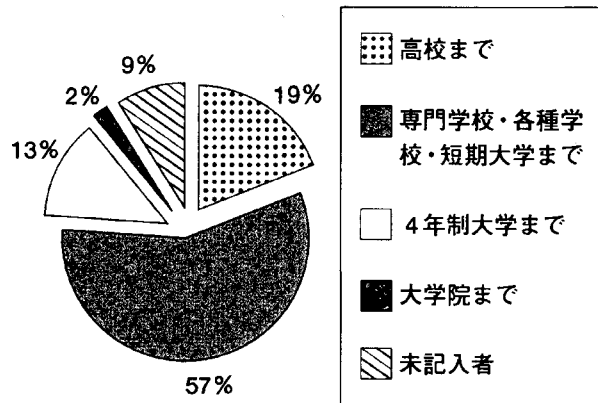


図4 母親の学歴

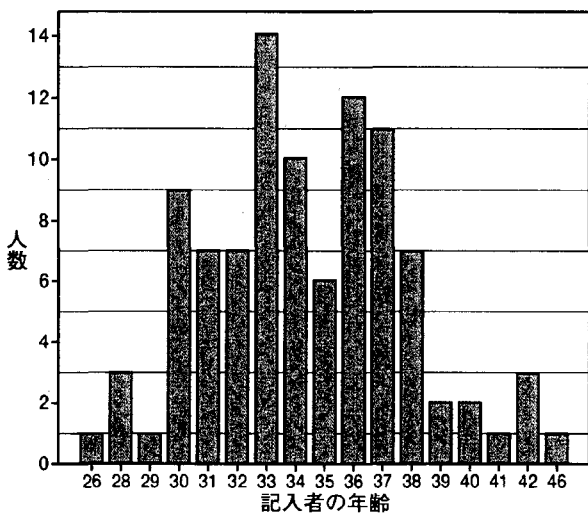


図2 調査対象保護者の年齢

専門学校・各種学校・短期大学卒56.7%，高卒19.6%，4年生大卒13.4%，大学院卒2.1%であった（図4）。父親の最終学歴は4年生大学卒40.2%，高卒25.8%，専門学校・各種学校・短期大学卒14.4%，大学院卒8.2%であった（図5）。

世帯月収額は、平均43.2万円であった。また、その収入源は、「妻は専業主婦で夫の収入による家族」（72.2%）が多く、ついで「妻の収入が夫よりかなり低い、夫の収入が中心の共働きの家庭」（21.6%）、「その他（単身家族など）」（3.1%）であった（図6）。

家族構成は、核家族が97.9%，夫との同居率は96.9%であった。祖父母との同居状態について、記入者のご両親は、同居（2.1%）、歩いて

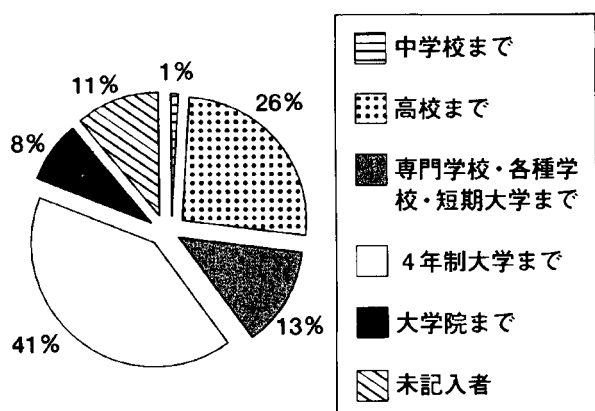


図5 父親の学歴

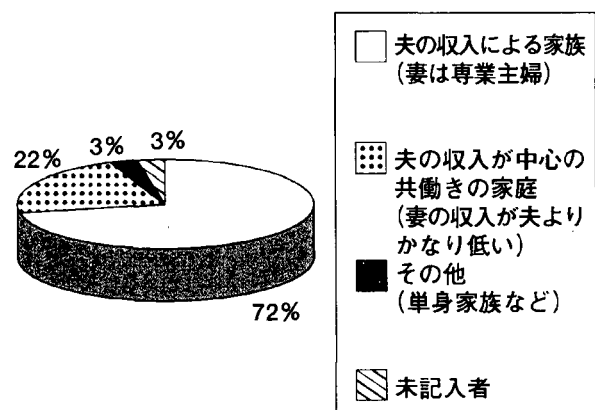


図6 家庭の収入形態

いけるくらいの所にいる (30.9%), 電車で1.2時間の所にいる (43.6%), それより遠くにいる (23.4%) と同居世帯は少数であった。配偶者のご両親では、同居 (2.1%), 歩いていけるくらいの所にいる (32.6%), 電車で1.2時間の所にいる (28.3%), それより遠くにいる (33.7%) とこちらも同じく同居世帯は少数であった。

2. 習いごと

どのような習いごとをしているのか、習いごとの現状を調査するために、まずは本調査記入時の対象となった習いごとについて、その習いごとの種類、習いごとへの加入時期・期間・加入予定期間、加入動機等について質問した。その後、本調査記入時以外の習いごとへの参加をしているものについては、その習いごとの種類や開始時期、加入理由をたずねた。さらに、学

校(幼稚園・保育園)での費用を除いた習いごとの費用の合計について質問した。

本調査記入時の対象となった習いごとの種類は、バレエ54名(55.7%), 体操クラブ27名(27.8%)が8割を占め、他体育遊び・リトミックが各3名ずつ(3.1%), ピアノ、バトントワリング各2名ずつ(2.1%), プール・空手・サッカーが各1名ずつであった(図7)。

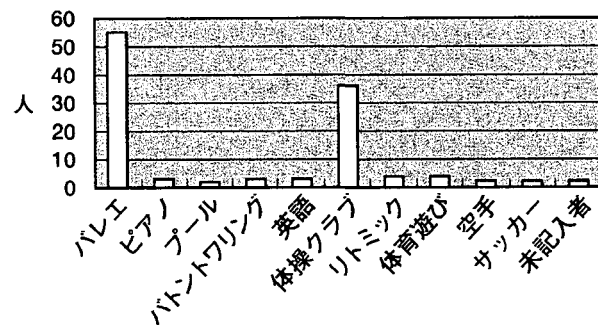


図7 調査記入時の習いごと

これらの習いごとの加入時期については、5歳(23.7%)が最も多く、2歳(22.7%), 4歳(20.6%)と続いた。加入期間については、12ヶ月から24ヶ月未満(35.5%)が最も多く、6ヶ月から12ヶ月未満(25.8%)と続いた(図8)。

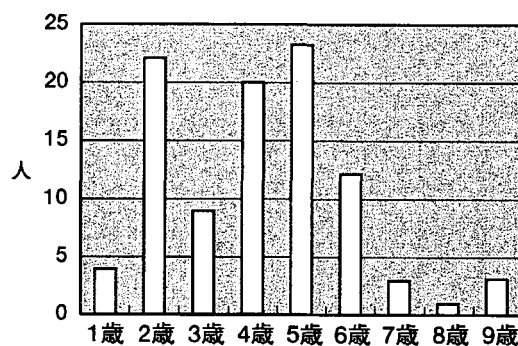


図8 入会時期

加入予定期間については、子どもがやめると言うまで、できれば続けさせたい(66.0%)が6割以上を占め、他2年以内(18.6%)の自由記述としては、子どもが幼稚園に入るまで、もしくは幼稚園児が小学校に入学するまでといった、幼稚園・小学校への入学を一区切りとして習いごとへの加入期間予定を考えている回答があった。

加入動機については自由記述で求めたところ、

「体によいと思った為」「体力をつける為」「踊りが好き」「きれいな姿勢を身につけるため」「集中力を高める為」「友だち作りのため」「本人の意思」「通いやすいところに教室を見つけた為」等の記述がある中で、「友だちに紹介されて良いとおもったので」「声をかけられて」などの「知人の紹介」によるものが26.8%と多かった。また、「母親である私が幼少の頃習いたかった為」「お兄ちゃんも通っていたから」などの回答が得られた。

では、実際習いごとに参加して何が得られたのか、加入して良かったと思う理由を15の選択肢により複数回答でたずねた所、「今までできなかったことができるようになった」(65.2%)が最も多く、「習っていることが得意になった・上手になった」(47.8%)、「発表会などで達成感を味わった」(40.2%)、「友だちが増えた」(37.0%)、「自信がついた、積極的になった」(25.0%)、「家族のコミュニケーションが増えた」(18.5%)、「集中力・精神力などがついた」(16.3%)、「友だちに自慢できるものが

できた」(14.1%)、「情操面に良い影響があった」(12.0%)、「身体が丈夫になった」(10.9%)であった(図9)。

本調査記入時以外に複数の習いごとへの参加をしているものについては、その習いごとの種類を質問したところ72.3%が本調査時以外の習いごとに参加し、スイミングスクールが26.6%、楽器(ピアノやバイオリンなどの個人レッスン)が20.2%、英会話などの語学教室や個人レッスンが19.1%、公民館など公共施設での自治体主催の教室・サークル(11.7%)であった(図10)。

また、それらの開始時期については3歳(17.5%)が最も多く、4歳(16.5%)、5歳(10.3%)であった。加入理由について自由記述で回答を求めたところ、スイミングスクールに子どもが入会している保護者は、「子どもがやりたいといった」「体力をつけるため」「短期教室に通って子どもがつづけたいといった」「ぜん息が良くなってくれればと思い」「水を怖がらない為」「親が苦勞したので」「ストレス

発散のため」「きれいに泳げるようになるため」「学校の授業や、将来の為」といった回答があった。楽器(ピアノやバイオリンなどの個人レッスン)に子どもが入会している保護者は、「本人の希望」「音楽が好きだから」「小さい間に始めておけば、個人の自信につながると思ったので」「体験レッスンを受けて、本人がやる気になったので」といった回答があった。英会話などの語学教室や個人レッスンに子どもが

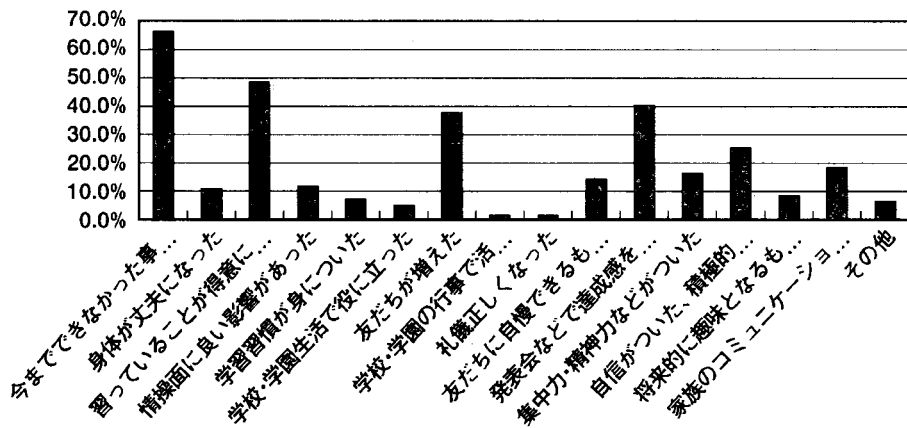


図9 習いごとを通して得られたもの

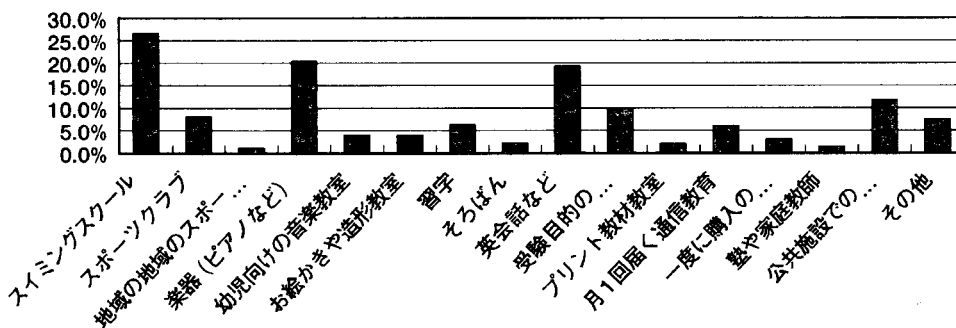


図10 かけもちの習いごと

入会している保護者は「本人の希望」「子どもの興味があることを伸ばしてやりたかった為」「将来、役に立つと思ったので」「楽しそう」「英会話は早い方が良いと思って」といった回答があった。

さらに、学校（幼稚園・保育園）での費用を除いた習い事、通信教育、塾、レッスンなどの1ヶ月の費用の合計（全ての習いごとを含む）についてたずねたところ、7500円～10000円未満（21.3%）が最も多く、2500円未満（19.1%）、5000円～7500円未満（15.7%）、2500円～5000円未満（12.4%）で、20000円～30000円未満も10.1%と1割を占めた（図11）。

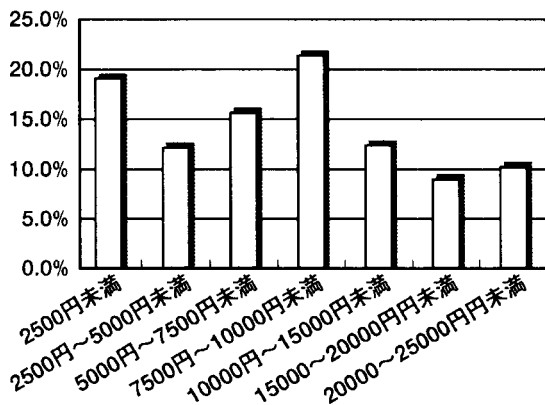


図11 学校（幼稚園・保育園）での費用を除いた習いごとの1ヶ月の費用の合計

3. 習いごと運営

より良い教室運営の方法をたずねることで、習いごとに対して保護者が時間や費用について、どのような意識を持っているかを調査した。質問紙では、学習塾や習いごとの開催日や開催時間、費用等について質問した。

開催日については、週1回が良いと答えた保護者（86.6%）が最も多く、開催時間については、60分が良い（67.0%）、45分が良い（16.5%）、90分が良い（12.4%）と続いた。開催時間帯については、夕方17時～19時の時間帯（36.1%）が最も多く、午前中（30.9%）、午後13時～16時（28.9%）という結果であった（表1）。

費用については、「あなた（記入者）が1回60分の習いごと（指導料と場所代を含む）を習いごとの先生として開いた場合を考えて、一人

表1 子どもの年齢と開催時間帯

子どもの年齢	開催時間帯				合計(人)
	午前中	午後(1時～4時)	午後(5時～7時)	特にいつでも良い	
1歳	1				1
2歳	12			1	13
3歳	9	1	1		11
4歳	6	3	2	1	12
5歳	2	10	6		18
6歳		8	7	1	16
7歳		3	6		9
8歳		3	7		10
9歳			2		2
10歳			4		4
合計(人)	30	28	35	3	96

の生徒さんの受講料はいくらが適当か」という質問項目でたずねた。その結果、1000円～1400円まで（36.1%）が最も多く、700円～900円まで（17.5%）、2000円～2400円まで（13.4%）と続いた（図12）。

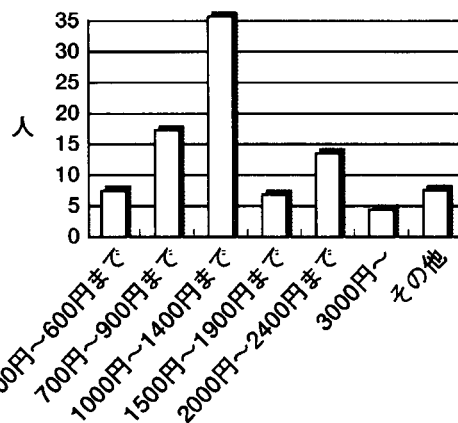


図12 週1回60分の習いごとの費用

その他、習いごとに対する要望や意見などを自由記述で求めた結果、「曜日も体育観の場所も決まっていないのであちこち通うのが大変である。夜なので就寝が遅くなる」「発表会の場を増やして欲しい」「もう少し技術面も重視して欲しい」「先日、台風で中止となり、それは無論やむを得ないことだが、振替をどこかでやって欲しいと感じた。予定に組み込むのも大変なのはとてもよく分かるが、せめて少しの人数ずつでも振り分けて、他の曜日に振り替えるなどのことを検討してもらいたかった」などの苦

情や願いや、「いつも楽しくやっております」「先生、いつもありがとうございます。初めはドキドキしていたようですが、先生に褒められると相当嬉しい様子で、毎回のおけいこをすごく楽しみにしています。これからがんばりそうです」「2歳で入会した時、子どもにとっては初めて先生やお友だちに出会う場なので、先生方がとても優しく語りかけてくださることで子どもの楽しみとなりました」「気軽な気持ちで始めましたが、本人が常にどこでも自然に体が動くくらいになって、とつぜん踊ったりしているのを見ると、楽しくやっている様子が分かります」といった好感的な回答が得られた。

4. 子どもへの期待する学歴と、将来期待する人物像

習いごとに通わせる保護者が、子どもたちの将来にどのような期待を寄せているのかを調査するために、子どもへの期待する学歴と、将来期待する人物像について質問した。

子どもが、どの段階の学校まで卒業することを希望するのかをたずねたところ、4年生大学までが44.8%、短期大学までが21.9%、高校までが11.5%、大学院までが7.3%であった(図13)。

子どもに将来どのような人になって欲しいか、

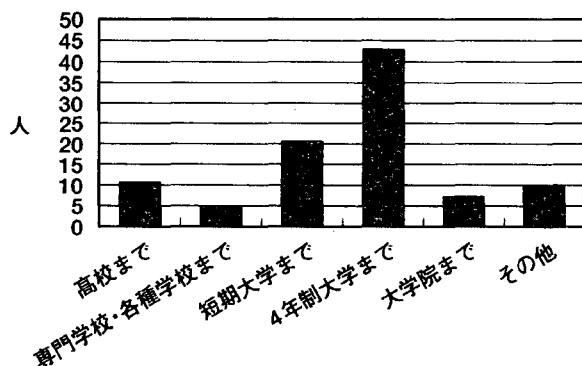


図13 期待する学歴

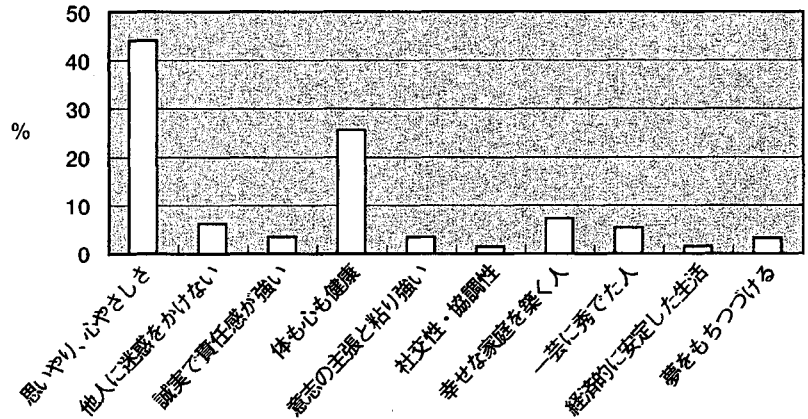


図14 期待する将来像 第1位

その期待する人物像に希望の高い方から順に1位から5位まで回答してもらったところ、第1位に望まれる中で、さらにそのなかで最も多かったのは、「思いやりがある、心やさしい人」(44.3%)で、次が「体も心も健康な人」(25.8%)であった。第2位に望まれる中でも「思いやりがある(図14)、心やさしい人」(20.6%)が最も多く、「体も心も健康な人」(18.6%)と続いた。他、「誠実で責任感の強い人」(16.5%)「幸せな家庭を築く人」(12.4%)「他人に迷惑をかけない人」(10.3%)の項目も高い数値が得られた。第3位(図15)になると、「思いやりがある、心やさしい人」(18.8%)、「社交性・協調性がある人」(11.5%)、「他人に迷惑をかけない人」(9.4%)「体も心も健康な人」(9.4%)「自分の意志を主張でき、粘り強い人」(9.4%)「幸せな家庭を築く人」(9.4%)であった。第4位では、「社交性・協調性がある人」(12.6%)「自分の意志を主張でき、粘り強い人」(12.6%)、「誠実で責任感の強い人」(9.5%)「幸せな家庭を築く人」(9.5%)と続いた。第5位(図16)では、「誠実で責任感の強い人」(16.1%)、「社交性・協調性がある人」(14.0%)、「体も心も健康な人」(11.8%)、「自分の意志を主張でき、粘り強い人」(10.8%)、「経済的に安定した生活ができる人」(9.7%)という回答が得られた。

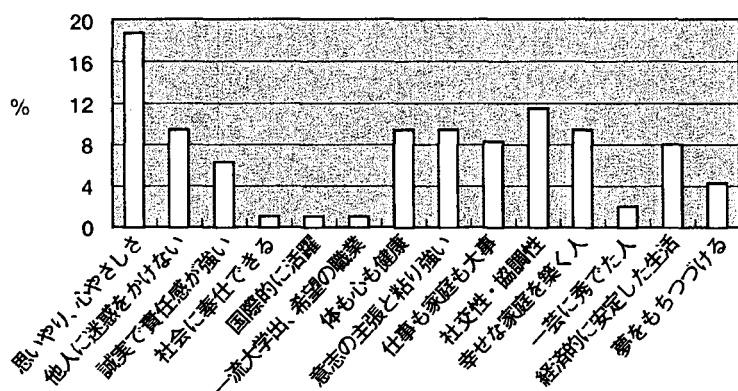


図15 期待する将来像 第3位

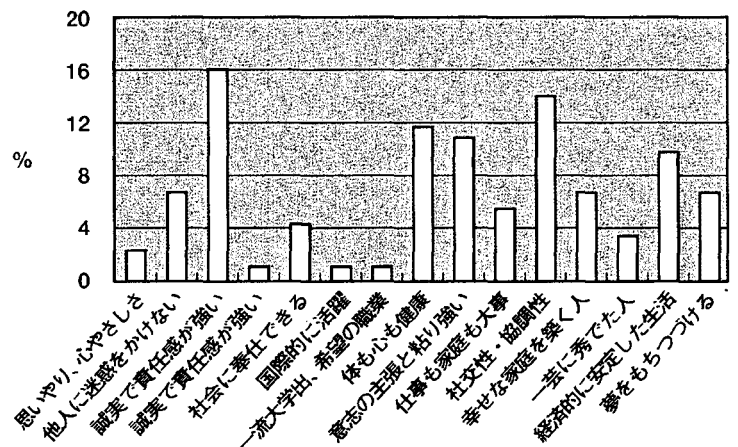


図16 期待する将来像 第5位

5. 習いごとに通わせる保護者自身の生活への満足度と現状

習いごとに通わせる保護者自身の生活への満足度と現状を調査するために、本調査記入者の

タイプや配偶者のタイプ、家庭の暮らし向き、生活への満足度について質問した(図17~19)。

「配偶者はどんな方ですか」という質問に仕事を中心とした人なのか、家庭を中心とした人なのかを選択肢で回答してもらった結果、「仕事も家庭も同じくらい」(47.8%),「どちらかといえば仕事中心」(22.8%),「どちらかといえば家庭中心」(14.1%),「仕事中心(モーレツな仕事人間)」(13.0%),「家庭第一」(2.2%)であった。逆に「記入者はどんな方ですか」という質問では、「どちらかといえば家庭中心」(44.4%),「家庭第一」(43.3%)が合わせて約9割弱を占め、「仕事も家庭も同じくらい」(8.9%),「どちらかといえば仕事中心」(3.3%)であった。

「家庭の暮らし向きに関して、お差し支えなければ記入ください」ということで回答を求めたところ、81名の回答を得、あまりゆとりがない(50.6%),少しゆとりがある(35.8%),ゆとりがない(12.3%)であった。

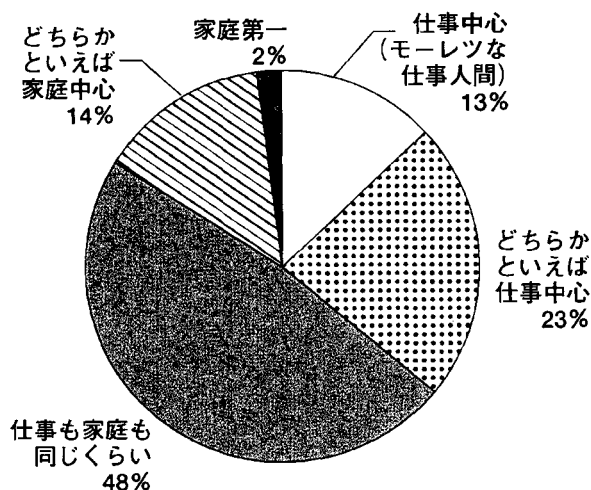


図17 配偶者のタイプ

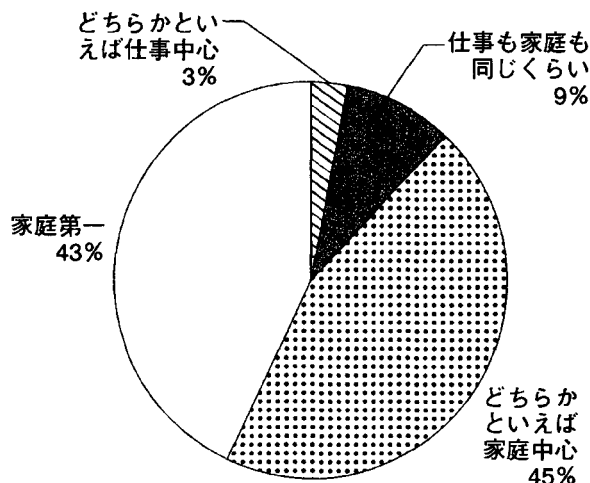


図18 質問紙記入者のタイプ

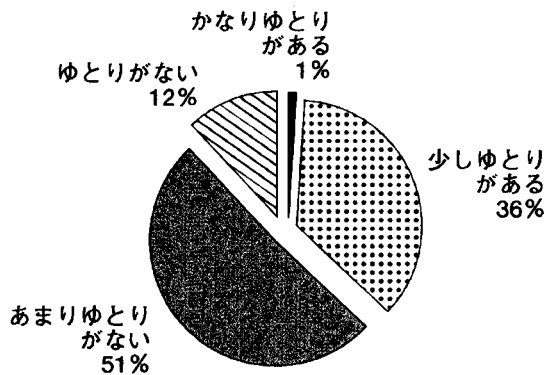


図19 家庭の暮らし向き

最後に「トータルに考えて、あなたは現在のご自分の生活に満足しているかどうか」について5段階でたずねたところ、88名の回答を得、まあ満足 (63.6%)、やや不満足 (19.3%) という結果であった。

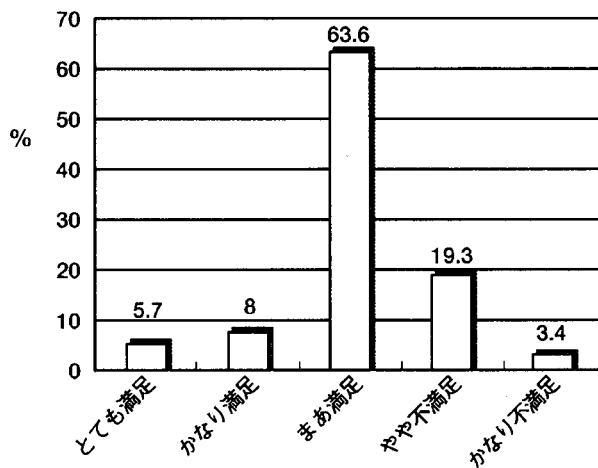


図20 記入者の生活への満足度

考 察

1. 習いごと

本調査研究においては、バレエと体操クラブ参加対象者で8割を占め、5歳から始めたという者が最も多かった。その加入動機としては、「知人の紹介・勧め」が多く、ベネッセ (1997) の教育情報源の入手先をたずねた調査結果と同様の傾向が見られた。今回のように小

規模の習いごとでは、普段の友人との日常のふれあいや、上の子が通っていたから下の子ども入会させるといった、人づてでの入会が大きな要因になっているといえる。また、現時点での加入期間を見ると6ヶ月以上～2年未満の対象者が6割を占め、子どもが辞めると言うまで、できれば続けさせたいと願っている保護者が多くいることから、一度入会したら途中で退会することも少なく、習いごと内での指導者と子ども、指導者と保護者、子どもたち同士、保護者同士の人間関係も良好であると推察できる。

このような雰囲気の中で習いごとが行われた結果、保護者は「今までできなかったことができるようになり」、さらには「習っていることが得意になったり、上手になったり」、結果として「発表会などで達成感を味わい」、それが「自信や積極性につながった」と習いごとが子どもに与えた良い影響を述べている。また、日頃の練習や発表会など、習いごと自体が「家族のコミュニケーションを増やす」ことや「友だちを増やす」結果につながっており、習いごとそれ自体が、子どもたちとそれを取り囲む人、もしくは外界 (他人) との接触の役割の一つを担っているといえよう。ベネッセ (2003) の全国調査でも、「今までできなかったことができるようになった」が男女とも4割弱、「習っていることが得意になった・上手になった」が3割強、「集中力・精神力がついた」「友だちが増えた」が2割強、男子では「身体が丈夫になった」が3割強、女子では「発表会などで達成感を味わった」が2割強の高い値を示しており、自信や達成感を深める場としての習いごと、コミュニケーションを深める場としての習いごとということが、保護者の意識調査から逆に習いごとの持つ良さや役割に位置づけることができる。

また、本調査の子どもにも複数の習いごとを掛けもちしている子どもが7割と多く見られた。その掛けもち対象として、スイミングスクールと楽器 (ピアノやバイオリンなどの個人レッスン)、そして英会話などの語学教室や個人レッスンが多かったが、スイミングに対しての保護

者の意識は、「水を怖がらないようにするため」とか「ぜん息が良くなるように」「体力をつけるため」のように競技的な視点よりも、スイミングを通して日々の生活につながるような実用的な視点を見ることができる。楽器（ピアノやバイオリンなどの個人レッスン）に関しての保護者の意識は、「音楽が好きだから」「小さい間に始めておけば、個人の自信につながるといった」など、実用性よりも趣味や教養的な視点を見ることができる。英会話などの語学教室や個人レッスンに関しての保護者の意識は、「将来、役に立つと思ったので」「英会話は早い方が良いと思って」など、将来を見据えた実用性の視点を伺い知ることができる。

このような習いごとに対してベネッセ（2003）の調査では、園外教育機関への教育費の支出は10000円未満が全体のおよそ3分の2であった。本調査においては小学生が全体の約25%（26名）含まれて入るものの、10000円未満が全体の7割弱を占め、保護者が子どもの習いごとに費やす費用が全国的な傾向と同じであることがいえる。

2. 習いごと運営

保護者に教室の運営状況について答えてもらうことで、習いごとに対するよりいっそうの保護者の意識調査を試みた。ここでは保護者にとって習いごとが開催される要因として、週1回60分の教室を希望する保護者が多く、時間帯に関しては、午前中に希望するのが、1歳～4歳までは9割を超え、午後（1時～4時）に希望するのが4歳～6歳までで7割強を占め、夕方（5時～7時）を希望するのが7歳～10歳で6割を超えた。これらは、習いごととは別の日常の学校、幼稚園・保育園で過ごす時間、もしくは未就園児といった観点と関連があるのではないかと考えられる。

また週1回60分の習いごとの指導者の立場に保護者自身が立つとしたら、1000円～1400円までの費用が妥当ではないかという回答が4割弱得られ、そこから1ヶ月単位の費用（最低1000円×4回）を計算すると約4000円。一つの習い

ごとが約4000円で、二つになると合計約8000円。これは本調査で約4割弱の保護者が該当した「学校を除く習いごと等の1ヶ月の費用の合計」5000円～10000円未満の範囲にあてはまり、多くの保護者はこの金額の範囲であれば、常識的な妥当なレッスン料ととらえていることがいえる。ただし、当然行われるべき週1回の習いごとが主催者側の何らかの都合で取り止めになった場合には、習いごとの振替を行うべきであるという保護者の意識もあり、月単位の決められた費用で習いごとを運営していく場合、月単位の費用を減額したり、振替をしたりするなど運営する側が柔軟に対応し、十分考慮することが大切といえよう。

また、自由記述から「入会した時、先生方がとても優しく語りかけてくださることで子どもの楽しみとなり」、そして「先生に褒められると相当嬉しい様子で、毎回のおけいこをすごく楽しみ」になり、「常にどこでも自然に体が動くくらいになって、とつぜん踊ったりしているのを見ると、楽しくやっている様子がよく分かる」といった一連の記述から、入会時におけるだれでも受け入れてくれる安心できる良い印象、そして指導者が認め励ますことによる子どもへの接し方が、結局は子どもたちの自信ややる気、楽しさを引き出し、保護者が習いごとを好意的に見ていくことにつながっていると読み取ることができる。したがって、習いごとの費用や日程といった環境的なものだけではなく、指導者の人柄や力量による人的な要因も大いに保護者の習いごとに対する意識に関わっているといえることができる。

3. 子どもへの期待する学歴と、将来期待する人物像

習いごとに通わせている保護者の意識を、習いごとの現状からだけではなく、「子どもの将来を見据えた今」という視点から広く捉えることを試みた。

本調査では、男の子では16名（72.7%）に「4年生大学までの卒業を希望」し、女の子では、21名（21.9%）の「短期大学までの卒業を

表2 記入者の学歴と期待する学歴

		期待する学歴						合計	
		高校 まで	専門学 校・各 種学校 まで	短期 大学 まで	4年生 大学 まで	大学院 まで	その他		
記入者の 学歴	高校まで	度数	4	1	2	7		4	18
		記入者の学歴の%	22.2%	5.6%	11.1%	38.9%		22.2%	100.0%
	専門学校・各 種学校まで	度数	1	1	4	5			11
		記入者の学歴の%	9.1%	9.1%	36.4%	45.5%			100.0%
	短期大学まで	度数	4	3	10	21	2	4	44
		記入者の学歴の%	9.1%	6.8%	22.7%	47.7%	4.5%	9.1%	100.0%
	4年生大学まで	度数			1	8	4		13
		記入者の学歴の%			7.7%	61.5%	30.8%		100.0%
	大学院まで	度数				1	1		2
		記入者の学歴の%				50.0%	50.0%		100.0%
	合計	度数	9	5	17	42	7	8	88
		記入者の学歴の%	10.2%	5.7%	19.3%	47.7%	8.0%	9.1%	100.0%

表3 配偶者と期待する学歴

		期待する学歴						合計	
		高校 まで	専門学 校・各 種学校 まで	短期 大学 まで	4年生 大学 まで	大学院 まで	その他		
配偶者の 学歴	中学まで	度数				1			1
		記入者の学歴の%				100.0%			100.0%
	高校まで	度数	6	2	5	9		3	25
		記入者の学歴の%	24.0%	8.0%	20.0%	36.0%		12.0%	100.0%
	専門学校・各 種学校まで	度数		2	4	3		1	10
		記入者の学歴の%		20.0%	40.0%	30.0%		10.0%	100.0%
	短期大学まで	度数	2				1		3
		記入者の学歴の%	66.7%				33.3%		100.0%
	4年生大学まで	度数	1	1	7	22	4	4	39
		記入者の学歴の%	2.6%	2.6%	17.9%	56.4%	10.3%	10.3%	100.0%
	大学院まで	度数			1	5	2		8
		記入者の学歴の%			12.5%	62.5%	25.0%		100.0%
合計	度数	9	5	17	40	7	8	86	
	記入者の学歴の%	10.5%	5.8%	19.8%	46.5%	8.1%	9.3%	100.0%	

希望する」よりも、27名(36.5%)の「4年生大学の卒業を希望する」が多く、女の子にも高学歴を求めている保護者が多かった。また調査記入者の学歴並びにその配偶者の学歴と子どもに期待する学歴をクロス集計したところ、4大卒の調査記入者・配偶者とも子どもに4年生大

う数字は、今回の調査でも保護者の意識が全国的な範囲にあるとみてよいだろう。

学歴としては、高学歴を子どもに期待する傾向が強い保護者であったが、その将来期待する人物像では、「思いやりがある、心やさしい人」「体も心も健康な人」「誠実で責任感の強い人」

学卒業までを望む傾向が強く、それ以外では若干数字が分散するが、概して4年生大学卒業を子どもに望む傾向が強かった。

ベネッセ(2003)の調査では、希望する進学段階として首都圏、地方都市のほうが郡部よりも高学歴志向であり、約半数が「4年制大学まで」を希望している(首都圏49.7%、地方都市46.7%)。その一方で、郡部では、「高校まで」(16.6%)、「専門学校・各種学校まで」(25.9%)という地域が他の地域よりも高く、「4年制大学まで」という希望は33.1%にとどまる。これらを参考にすると、本調査地域が大阪～京都にかけてのどちらかという大都市と大都市の間にはさまれたベッドタウンのような社会環境であるため、「4年制大学まで」を希望する保護者が44.8%とい

「社交性・協調性がある人」「自分の意志を主張でき、粘り強い人」「幸せな家庭を築く人」という期待像が浮かび上がってきた。周りの人に対して「思いやりや心やさしさ」を第1とし、そのためには自分自身が「体も心も健康」であって、物事を行うにあたっては「自分の意志を主張し、粘り強くがんばり」、「社交性・協調性」をもって最後まで「誠実に責任感」をもって行う人へ成長して欲しいと願う親の期待がここに見られる。これらには「結果 1. 習いごとについて」で得られた加入動機もしくは加入して良かったことと同じ見解の延長線上にある人物像が浮かび上がり、保護者の意識としては、将来こうあって欲しいと期待する人物像の発展にも寄与する形で、習いごとが位置づけられているということができるとはのではないだろうか。

4. 習いごとに通わせる保護者自身の生活への満足度と現状

では、実際習いごとに子どもを通わせる保護者自身の生活への満足はいかなるものであろうか。本調査の記入者には、専業主婦が66名(69.1%)で、パートタイム19名(20.2%)と合計すると、約9割弱にあたり、これは記入者のタイプの回答である「どちらかといえば家庭中心」(44.4%)、「家庭第一」(43.3%)と関連しているようである。したがって本調査では、家庭中心に考えている母親が多く父親については「仕事も家庭も同じくらい」(47.8%)と考えている夫婦像が浮かび上がってくる。

母親の年齢は平均34.4歳で、世帯の月収は平均43.2万円、家庭の暮らし向きは、あまりゆとりがないが、トータルに考えると、現在の自分の生活にはまあ満足であるという保護者自身の生活への現状を見ることができた。

まとめ

本研究では、習いごとへ子どもを通わせる保護者の意識についての基礎的な資料を得ることを目的とするものであった。さらには子どもたちを取り巻く習いごと環境の現状把握と改善を図るための資料を得ることを目的とするもので

あった。その結果、以下のことが明らかになった。

1. 習いごとは「子どもの自信や達成感を深める場」であり、子ども同士、保護者同士、指導者と子ども、指導者と保護者同士の「コミュニケーションを深める場」であるということが、保護者の意識の中にあり、それがまた、習いごとの良さであるということがわかった。
2. スイミングスクールに子どもを通わせる保護者では、競技的な視点よりも、スイミングを通して日々の生活につながるような実用的な意識をもっており、楽器(ピアノやバイオリンなどの個人レッスン)に子どもを通わせる保護者は、楽器を通して実用性よりも趣味や教養的な意識をもっていること、英会話などの語学教室や個人レッスンに子どもを通わせる保護者は、英会話などを通して将来を見据えた実用的な意識をもっていることが明らかになった。
3. 習いごととしては、週1回60分、1歳から4歳までは午前中に行い、4歳から6歳までは午後(1時~4時)に行い、7歳から10歳までは夕方(5時~7時)に行われることが望ましく、その費用は週1回60分、時間単位で1000円~1400円が妥当であるという保護者の意識があり、さまざまな都合で取り止めになった場合でも、別の日に習いごとの振替を実施して欲しいという習いごと運営への要望をもっているということがわかった。
4. 習いごとの費用や日程といった環境的な部分だけではなく、指導者の人柄や力量による人的な要因が大いに保護者の習いごとに対する意識に存在することが示唆された。
5. 習いごとは、将来子どもにこうあって欲しいと期待する人物像の発展にも関連し寄与する形で、保護者の中には意識づけられているということが推測された。

注)

1. 本調査対象の習いごとでは、質問紙を作成する中で、教室や講習会、月謝といった文言は入れないで欲しいという申し入れが、調査を引き受けてくださる指導者からあった。それは、指

導者が公民館等を借りることで、習いごとを開いているからであり、表向きは志を同じにするグループが、趣味のために会場（公民館等）を使うという目的にしか、会場が貸し出されないということであるらしい。そこには月謝などの言葉が外に漏れたら、会場が使えなくなるという深刻な問題にまで発展するということである。このような社会制度が、子どもたちへ習いごとやスポーツプログラムを指導者が提供していく環境の中で、大きな阻害要因になっているようである。したがって、これら施設を取り巻く問題についても、これからの研究の課題としていかなければならないところである。

なお、本調査での習いごとの含む意味としては、学校（幼稚園・保育園）での活動を除いたおけいこ事、通信教育、塾、レッスン、〇〇教室、〇〇クラブなど、全ての習いごとの意味を含んでいる。

2. ベネッセ（1997）子育て生活基本調査報告書一園児，小学校1・2年生の母親を対象に一。では，1997年9月～10月に，東京都，埼玉県，千葉県，神奈川県にて，年少時から小学校2年生をもつ家庭での育児生活の実態，およびしつけや教育に関する母親の意識，また，母親自身の活動状況を調査。調査対象保護者のうち，母親4613人を分析対象としている。
3. ベネッセ（2003）第2回子育て生活基本調査（幼児版）一幼稚園児・保育園児の保護者を対象に。では，2003年9月～10月に，首都圏（東京都，埼玉県，千葉県，神奈川県），地方都市

（四国地方の県庁所在地），郡部（東北地方）の幼稚園児・保育園児の子どもをもつ保護者4,471名のうち，3,477名の首都圏の母親を中心に，ベネッセ（1997）第1回調査と同テーマで実施，分析している。

文 献

- 国土将平（2002）子どものライフスタイルから見えること。体育科教育第50巻(4)：10-14.
- 是枝喜代治（2002）運動が子どもの発育発達に及ぼす影響一運動離れは子どもに何をもたらすか一。体育科教育第50巻(3)：14-17.
- 齊木 勝（2002）熱中症の事例からスポーツ指導者に訴えたいこと。体育科教育第50巻(8)：52-56.
- 関 真理子（2004）子どもの心とからだは危ない!!。体育科教育第52巻(12)：38-41. 中村和彦（2002）子どものライフスタイルから見えるもの一運動離れは何をもたらすのか一。体育科教育第50巻(3)：10-13.
- 福田 潤（2002）学校管理下でのスポーツ事故・負傷とその背景。体育科教育第50巻(8)：42-47.
- ベネッセ（1997）子育て生活基本調査報告書一園児，小学校1・2年生の母親を対象に一。
[http:// www.crn.or.jp/LIBRARY/KOSODATE/KOSODATE 1/](http://www.crn.or.jp/LIBRARY/KOSODATE/KOSODATE 1/). ベネッセコーポレーション.
- ベネッセ（2003）第2回子育て生活基本調査（幼児版）一幼稚園児・保育園児の保護者を対象に。
[http:// www.crn.or.jp/LIBRARY/KOSODATE/KOSODATE 4/](http://www.crn.or.jp/LIBRARY/KOSODATE/KOSODATE 4/). ベネッセコーポレーション.